

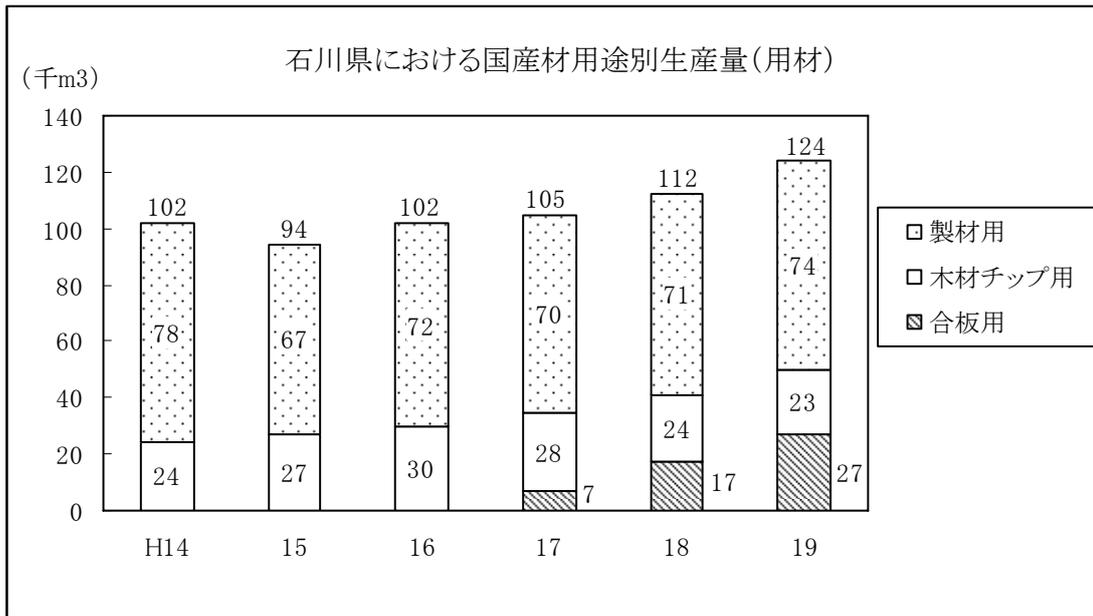
# I 石川県における木材産業の概要

## 1 木材の需要と供給の現状

### ○ 合板用木材生産が増加 (Ⅱ-2表、9頁)

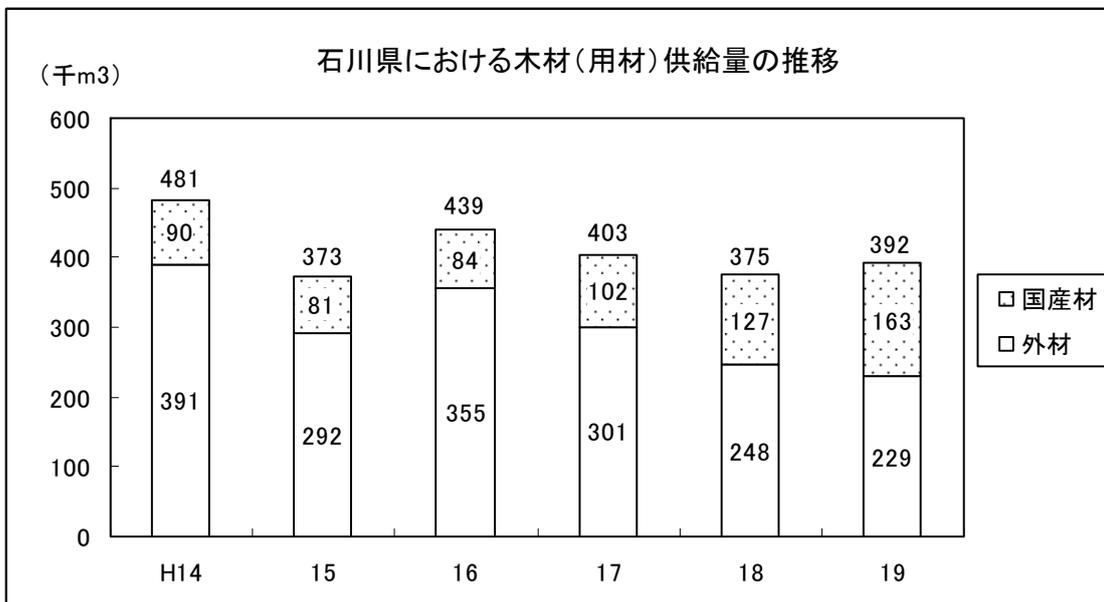
平成19年次の県内木材生産量の総数は、124千 $m^3$ (対前年110.7%)であった。

用途別では、製材用が74千 $m^3$ (対前年104.2%)、合板用が27千 $m^3$ (対前年158.8%)、チップ用が23千 $m^3$ (対前年95.8%)となった。



### ○ 国産材供給割合が上昇 (Ⅱ-8表、17頁)

平成19年次の県内木材供給量の総数は392千 $m^3$ であった。内訳は、国産材が163千 $m^3$ (対前年128.3%)、外材が229千 $m^3$ (対前年92.3%)となった。国産材供給率は、41.6%と大きく上昇した。



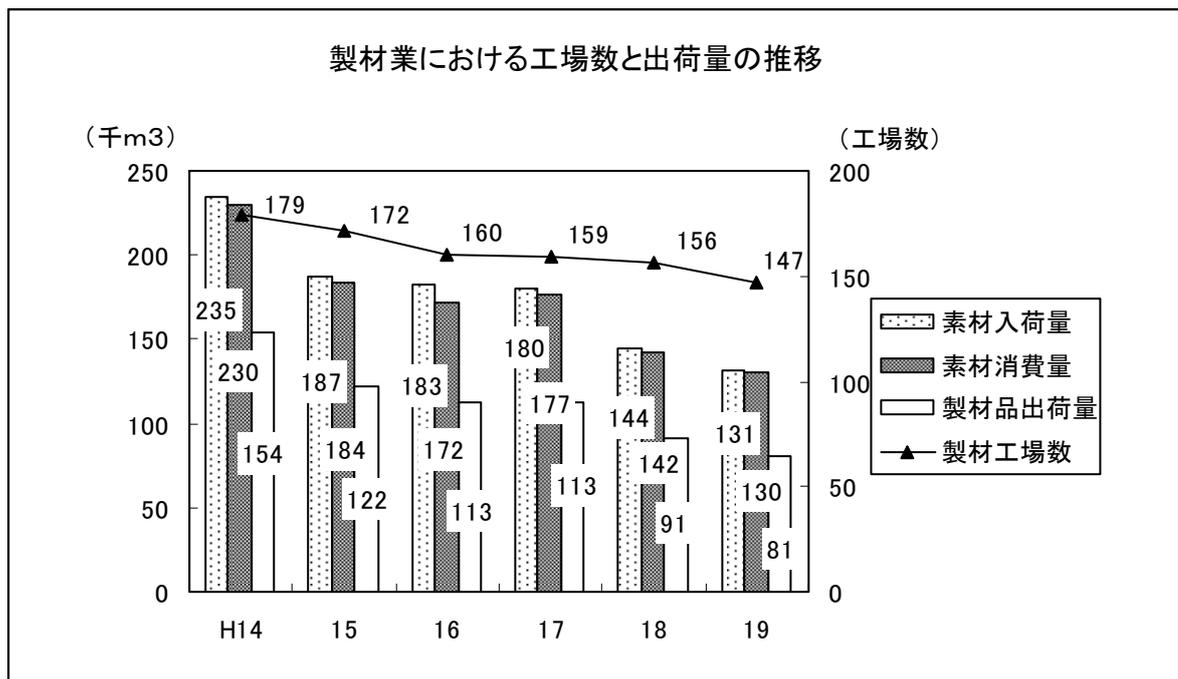
## 2 木材工業の現状

### (1) 製材業

#### ○ 工場数・素材入荷量は減、外材入荷量が減少 (Ⅲ-2表、23頁)

平成19年次の県内製材工場数は、147工場(対前年11工場減)、従業者数は512人(対前年75人減)となった。素材入荷量は、131千 $m^3$ (対前年91.0%)であり、内訳は国産材71千 $m^3$ (対前年101.4%)、外材60千 $m^3$ (対前年81.1%)になった。素材消費量は、130千 $m^3$ (対前年91.5%)であり、製材品出荷量は、81千 $m^3$ (対前年89.0%)であった。

また、動力の総出力数は、11,342kW(前年比94.3%)であり、工場当たりの出力数は77.2kWであった。



### (2) 合板製造業

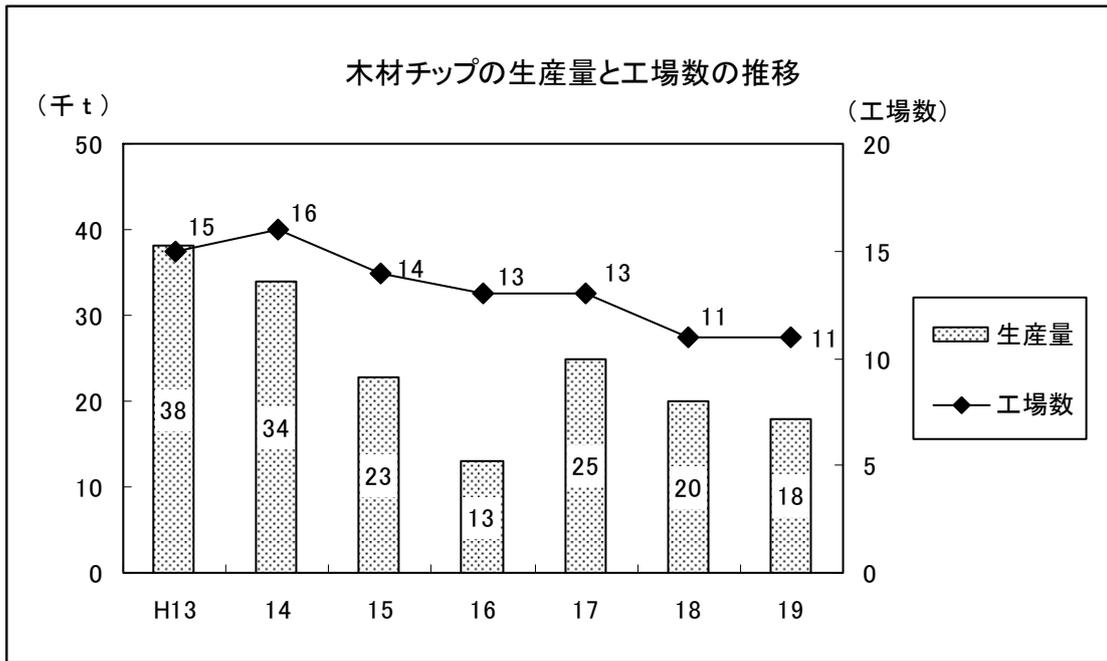
平成17年次より、法人等の個別情報に関わるため合板製造量等の数字は非公表となっているが、合板製造用原木に占める国産材の割合は上昇している。

### (3) 木材チップ工業

#### ○ 生産量は減 (Ⅲ-6表、26頁)

平成19年次の県内木材チップ生産量は、18t(対前年90.0%)となった。原材料入手区分別では、工場残材が8千t(対前年88.9%)、素材が10千 $m^3$ (対前年90.9%)となった。

工場数は11工場(対前年増減なし)であった。



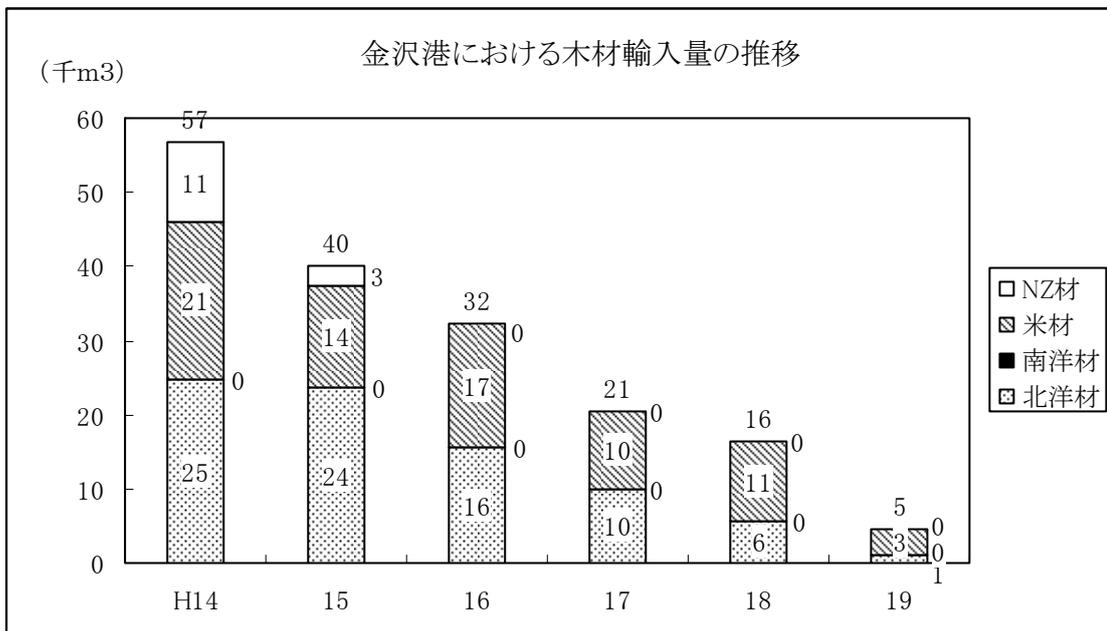
※注：平成12～15年については、容積（ $m^3$ ）を重量（t）に換算した。なお換算には、林野庁が木材需給表作成に使用している換算率（針葉樹：1 t =  $2.2m^3$ 、広葉樹：1 t =  $1.7m^3$ ）を用いた。

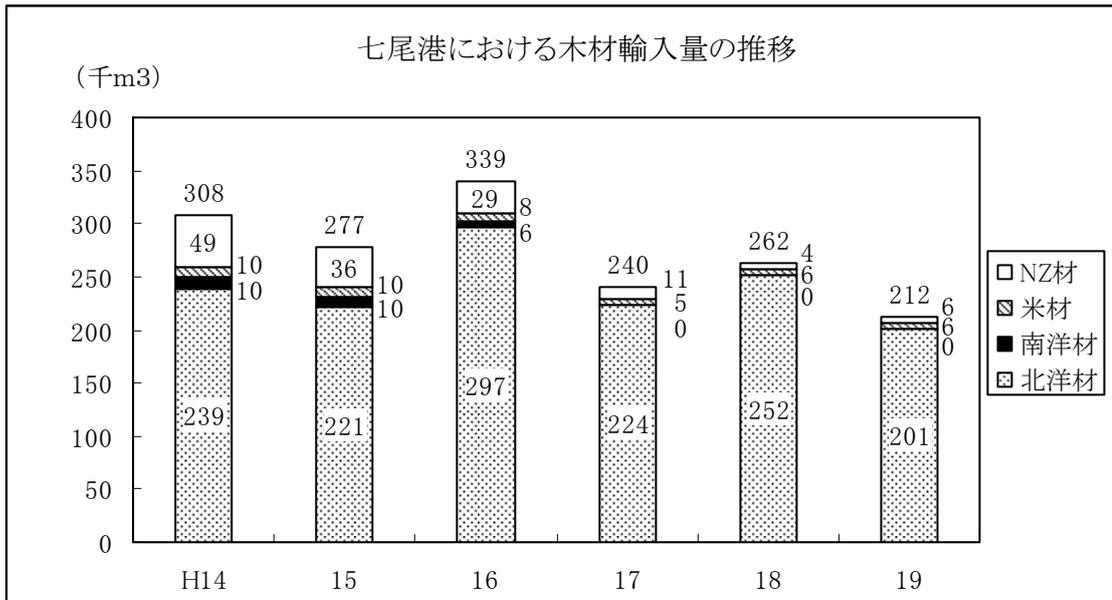
### 3 木材輸入の動向

#### ○ 北洋材・米材は減、NZ材は増（IV-1・2表、28～29頁）

平成19年次の県内木材輸入総量は  $216,882m^3$ （対前年77.9%）であった。内訳は、北洋材が  $201,710m^3$ （対前年78.4%）、米材が  $9,167m^3$ （対前年54.6%）、ニュージーランド材（NZ材）が  $6,006m^3$ （対前年135.4%）であり、北洋材率は93.0%であった。

北洋材の内訳をみると、カラマツが  $169,021m^3$ （構成比83.8%）、アカマツが  $17,873m^3$ （構成比8.9%）、エゾマツが  $12,185m^3$ （構成比6.0%）、パルプ材が  $2,631m^3$  となった。

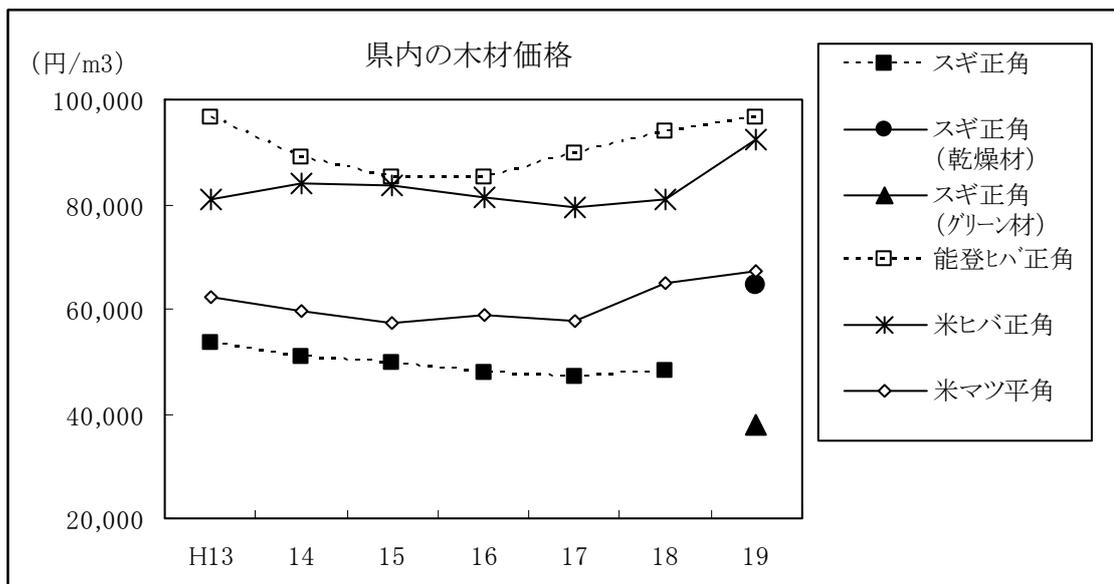




#### 4 木材価格の動向

##### ○ スギ製品価格が上昇 (V-2表1、36~37頁)

平成19年次の県内の木材製品価格は、スギ正角(乾燥材)は64,500円/m<sup>3</sup>、スギ正角(グリーン材)は38,000円/m<sup>3</sup>、スギ正割は50,500円/m<sup>3</sup>(対前年6,700円高)、能登ヒバ正角は96,600円/m<sup>3</sup>(対前年2,600円高)となり、米ヒバ正角は92,500円/m<sup>3</sup>(対前年11,600円高)、米マツ平角は67,400円/m<sup>3</sup>(対前年2,600円高)となった。

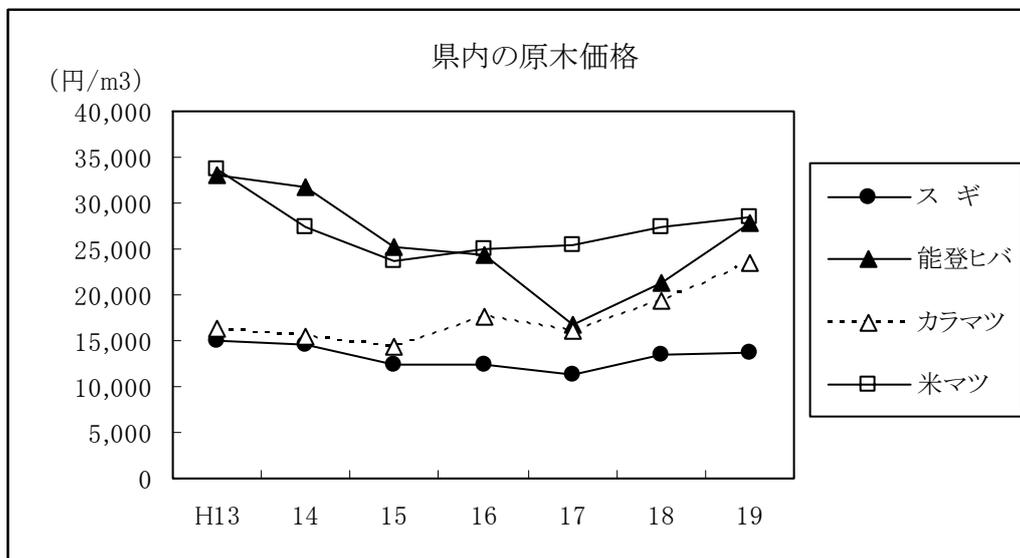


平成19年5月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

※スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材を分けて調査開始。

○ 素材価格が上昇 (V-2表2、38頁)

平成19年次の県内の製材用素材価格は、スギは13,600円/m<sup>3</sup>(対前年200円高)、能登ヒバは27,900円/m<sup>3</sup>(対前年6,500円高)となり、カラマツは23,400円/m<sup>3</sup>(対前年4,000円高)、米マツは28,500円/m<sup>3</sup>(対前年1,200円高)となった。



5 住宅着工の推移

○ 住宅着工が減少 (VI-1表、40頁)

平成19年次の県内新設住宅着工数8,850戸(対前年95.0%)のうち木造住宅は5,878戸(対前年97.8%)となった。新設住宅着工数の木造率は66.4%(対前年1.9ポイント減)であった。

着工新設住宅の総床面積は849千m<sup>2</sup>(対前年88.5%)で、1戸当たりの平均床面積は95.9m<sup>2</sup>(対前年93.2%)であった。

